

「昭和 23 年の学制改革に遭遇した世代の『思い出の記』(その 11)」

《 相馬中学校に入学し相馬高校卒業となる等 》

私の中の相高美術部 ^(※1)高普 4 回卒 渡辺 雄彦 ^(※2)

私が相馬中学校に入学したのは、終戦間もない昭和 21 年 4 月のことで、当時は学区というのがなかったのか南は双葉郡の浪江から北は宮城県の亶理や角田からも相中に通って来ていた。当時の中学は 5 年制で、最上級生は大人のような感じだったし、中には軍隊から戻ってきて復学した人などもいて怖かった。クラスは甲乙丙丁組の 4 クラスで 1 クラス 50 人だったと記憶している。

部活動も盛んだったようで、5 年生の各部の部長らしき人が新入生のクラスを勧誘のために歩き回っていた。美術部の部長がクラスに入ってきて、いきなり黒板に大きなポパイを描いて見せた。そして「美術部に入るとこんな風にすぐ描けるようになるんだぞ!」と言った。その方は大野博伸 ^(※3) 先輩だったことを後で知った。

私は迷わずに美術部に入ったが、美術部に入る魅力がもう一つあった。それは毎年文化祭には女学校との合同美術展があって、その期間だけは堂々と女学校の門から入ることができた。これは女子高校になってからも続いた。汽車通の生徒などは相馬駅から同じ大手先の学校まで、男子と女子の通学路が別々に指定されていた時代だったから、それは大変なことだったと思う。美術部は進歩的だったのかもしれない。

美術部には優れた先輩が大勢いて強い刺激を受けた。5 年生には多摩美大に進んだ斎藤公明 ^(※4) 氏、4 年生にはやはり多摩美大に進んだ清水十一郎 ^(※5) 氏や大井病院の大井博之 ^(※6) 氏、それに東京から疎開して後に東京芸大に進み、文芸春秋社に勤めた粟屋充 ^(※7) 氏、さらに 3 年生には福島大に進み、後に母校の相高で美術教師となった新妻徳善 ^(※8) 氏などがいた。2 年生には存在感の強かった三浦巖 ^(※9) 氏や、途中で仙台一高に転校した渡部大作 ^(※10) 氏などがいて、彼のデッサンは断トツで仙台一高から東京芸大に進み、首席で卒業したと聞いている。ところが卒業後の個展の後、亡くなった。彼のお姉さんも相高の美術部に入っていたことを覚えている。私の同期の 1 年生では「裂魔力」と自ら名乗っていた佐久間力 ^(※11) 君以外あまり記憶にない。

翌年からは学制改革で 6・3・3 制となり相中から相高となった。そして私たちは高校入学まで「併設中学校」に在籍することになった。各市町村に中学校ができたことから、下級生が入学してこない状態が続き、我々は高校 2 年になるまで最下級生となり打たれ強くなったと思っている。4 年間のブランクの後に高校に入学して美術部に入った中には多摩美大に進んだ菅野利重 ^(※12) 氏や山上の津田定信 ^(※13) 氏、今でも仙台で水彩画を描いている佐藤雄 ^(※14) 氏などがおり、その下の学年では多摩美大を出て相馬で教職についていた西啓太郎 ^(※15) 氏などが見られる。

私が在籍した期間以外で現在活躍している者として、武蔵野美大を出て新象作家協会の三浦哲彦 ^(※16) 氏、後輩には河北美術展の顧問で県展の運営委員などをつとめる青田道雄 ^(※17) 氏、福島大に進み卒業後は相馬高

の美術教師をつとめた朝倉悠三^(※18)氏、武蔵野美大に進み永年相馬絵画研究所を運営しながら、中国の東北師範大学、モンゴルやチベットの大学でも客員教授として毎年海外で活躍を続ける倉本信之^(※19)氏、東京芸大日本画科に進み、創画会員として出品を続ける鈴木龍郎^(※20)氏などを挙げることができよう。

美術部顧問としては、私が中学3年時に鈴木琢磨^(※21)先生が着任された。ベートーベンのような長髪と日本人離れした容貌に絵の具のついた軍服、その手に絵の具箱を持ったその姿はカッコよく、青年画家の見本のようなものであった。昭和23年のことである。

(渡辺雄彦氏は仙台市在住。宮城教育大名誉教授。日展会員。日洋会理事(東北支部長))

(※1) 創立120周年記念誌『乗り越えて その先へ』(2018(平成30)年10月発行)の「卒業生からの寄稿」より転記。

(※2) 昭和27(1952)年卒、飯豊出身。

(※3) 昭和22(1947)年卒、相中第46回、中村出身。

(※4) 昭和23(1948)年卒、相中第47回、中村出身。

(※5) 昭和24(1949)年卒、相高普第1回、飯豊出身。

(※6) 昭和24(1949)年卒、相高普第1回、中村出身。馬城かわら版112号「当時の戦況と学徒動員」に記載。

(※7) 昭和24(1949)年卒、相中第48回、東京都出身。

(※8) 昭和25(1950)年卒、相高普第2回、中村出身。

(※9) 昭和26(1951)年卒、相高普第3回、中村出身。

(※10) 昭和23(1948)年、併設中学校第1回卒 → 仙台一高

(※11) 現姓相原。昭和27(1952)年卒、相高普第4回、駒ヶ嶺出身。

(※12) 昭和28(1953)年卒、相高普第5回、中村出身。

(※13) 昭和28(1953)年卒、相高普第5回、山上出身。

(※14) 昭和28(1953)年卒、相高普第5回、中村出身。

(※15) 昭和29(1954)年卒、相高普第6回、上真野出身。

(※16) 哲往(哲夫)。昭和20(1945)年卒、相中第44回、中村出身。

(※17) 昭和32(1957)年卒、相高普第9回、中村出身。

(※18) 昭和34(1959)年卒、相高普第11回、鹿島出身。馬城かわら版第7号「朝倉悠三さんのこと」

及び第118号「震災絵日記展」に記載。

(※19) 昭和34(1959)年卒、相高普第11回、飯豊出身。馬城かわら版第117号「相馬絵画研究所創立55周年」に記載。

(※20) 昭和46(1971)年卒、相高普第23回、中村出身。

(※21) 昭和16(1941)年卒、相中第39回、太田出身。

(転記&※脚注 村山)